

# 市議会だより



父兄と餅つきを楽しむ  
子どもたち  
(だしの子園)

## 主な内容

- 12月定例議会 …………… 2～3P
- 一般質問 …………… 4～12P
- 常任委員会だより …………… 13～15P
- 平成18年度一般会計歳入歳出決算 …… 16～17P
- 会派設立・編集後記 …………… 18P



## 12月定例議会

# 平成18年度一般会計・特別会計決算認定案 12件全てを可決承認す

# 武藤教育委員長退任に伴う 新教育委員に三浦陽一氏の任命に同意

●市議会十二月定例会が十二月四日から二十一日まで、十八日間の会期で開催された。

●十二月定例会には決算認定議案が上程されることから、決算議会とも言われている。

●市長提出議案は平成十八年度一般会計、特別会計の決算案十二件、条例の一部改正案八件、十九年度一般会計及び特別会計、企業会計の補正予算十二件、市道の認定・変更と公の施設の指定管理者の指定三件の計三十五件。決算は合併後、初めての通年決算で、一般・特別の会計歳入総計は三十四億九、七七六万円。

●一般質問は、今定例会から会派移行に伴い質問者数割当て制で行い、創成会二、政真会一、仁政クラブ三、翠鸞会二、共産党一の九氏が登壇した。

●五日間の各委員会での審査の後、二十一日の最終本会議で全議案を（一部議案は賛成多数で）可決・認定した。追加提案された教育委員の任命案は投票による採決の結果、賛成多数で同意された。

### 教育委員長 委員長職務代理者共に不在の異例に終止符

仙北市教育委員会は、昨年十一月二十五日から武藤委員長が任期満了により、十二月七日からは委員長職務代理者職も任期切れにより、二役職の不在となった。現職がいる内に新委員の任命をするのはどうかとの当局の思いから異例の事態が続いていたが、最終本会議の追加議案で、新教育委員・三浦陽一氏（五三）の任命案が提出され、投票による採決の結果十四対八の賛成多数で同意された。教育委員会では十二月二十六日に委員会を開催、委員長などの選任を行った。

### 市議会豪雨災害対策本部 要望活動を終え解散す

昨年九月十七日に市内を襲った豪雨は各地に甚大な被害をもたらした。市議会では九月二十日に市議会豪雨災害対策本部を設置して、災害復旧に向けて、市や県、県議会等に要望活動を行ってきた。市および県が災害復旧の予算措置をし、復旧工事に取りかかり始めたことで、十二月二十一日の最終本会議終了

## 教育委員会委員の職名・任期

職名	氏名 住所・年齢	任期
委員長	佐久間 健一 西木町小淵野(63歳)	自 平成17年11月25日 至 平成21年11月24日
委員長 職務代理者	千葉 勇 田沢湖田沢(65歳)	自 平成17年11月25日 至 平成20年11月24日
委員	安藤 満里 角館町上菅沢(52歳)	自 平成18年12月 5日 至 平成22年11月 4日
委員	三浦 陽一 田沢湖神代(53歳)	自 平成19年12月21日 至 平成23年12月20日
教育長	小林 一雄 角館町雲然(64歳)	自 平成17年11月25日 至 平成21年11月24日



12月21日開催の市議会災害対策本部会議



# 市民税・固定資産税の前納報奨金制度の廃止案 賛成多数で可決

## 公の施設の指定管理者指定にかたくり館を追加

### これまでに公の施設の指定 管理者の指定を行った施設一覧

- かたまえ山森林公園
- 西木山の幸資料館
- 仙北市民バス（中川及び下延八割線）
- 下延コミュニティセンター
- 八割コミュニティセンター
- 西木温泉ふれあいプラザ「クリオン」
- 角館西宮家
- 角館駅前広場観光振興施設
- 交流促進センター、交流滞在施設等
- 都市農村交流施設
- 角館中心市街地活性化支援センター
- 仙北市自然ふれあい温泉館
- 田沢湖観光情報センター
- 田沢湖キャンプ場
- 縄文の森交流広場
- 市民浴場「東風の湯」
- 活性化施設「かたくり館」（4月から）

後、対策本部会議を開し、要望活動の終了を確認し、対策本部を解散した。

**市税条例の一部改正で前納報奨金制度を廃止**

仙北市では固定資産税と市県民税（普通徴収分）を第一期の納期限内に、第四期までの全額を納付した場合、納付税額の〇・五％を報奨金として交付していたが、納税の公平性の確保を図るといふ面からこれを廃止する条例一部改正案が提出された。討論では「市税のさらなる滞納をまねくもの」との反対意見が出されたものの、採決の結果、十九対三の賛成多数で可決した。

### 公の施設の指定管理者の指定に「かたくり館」

公の施設の指定管理者の指定で、新たに市活性化施設「かたくり館」を西木町小山田の北小山田常会に指定管理する事を承認した。

仙北市の行政改革集中プランの中では、市の二十四施設を指定管理に移行する計画となっているが、これにより指定管理施設は二十五施設と当初計画以上の件数となった。



# 一般質問



## 産業振興について 災害対策について 教育について

澤田 信男

**企業誘致のその後について**  
**質問** 企業誘致については、昨年九月定例会でも市が総力を挙げて取り組むべきだと、ただしている。昨年の九月以降どのような形で取り組まれたのか、その結果はどうだったのか伺う。  
**市長** プロジェクト推進室を作り努力はしているが、結果として現在顕著なものが出ていないというのが現状である。東京の立地セミナーでは、経営者、関係者に企業立地、事業拡大という趣旨で参加者と面談をして仙北市の良さを訴えてきたところである。もう一点は、県内九市町村による木材関連地域産業活性化計画に国の地域指定を受け、木材関連企業の事業拡大、誘致、設備投資など側面から支援しながら企業の誘致に力を入れていきたいと思っ

ている。  
**質問** 特産品の開発について  
**市長** 榊細工は、初めは武士の手内職だったように聞いている。現在は角館町の米の出荷額ぐらゐまで伸びたようである。米価が毎年値下がりしている今、特産品に何を選定し、どう奨励していくかは、産業振興の上から行政の大きなテーマだと考えるが、どう取り組んでいくのか伺う。  
**市長** この一年間、商工会、J Aとの連携のもとに特産品開発をやってきた。ここ数年の中で特産品の芽が少しずつ育ってきていると思っ

ている。積雪量の多い地域でもあり、断層群の近いところから耐震調査、改修の計画をすべきと思うがどうか。  
**市長** 三月に県から仙北市地域防災計画が正式に決まってくる。この計画に基づいて耐震改良推進計画を作っていくかと思っ

ている。積雪量の多い地域でもあり、断層群の近いところから耐震調査、改修の計画をすべきと思うがどうか。  
**市長** 三月に県から仙北市地域防災計画が正式に決まってくる。この計画に基づいて耐震改良推進計画を作っていくかと思っ



さらなる学力向上を!!

ている。積雪量の多い地域でもあり、断層群の近いところから耐震調査、改修の計画をすべきと思うがどうか。  
**市長** 三月に県から仙北市地域防災計画が正式に決まってくる。この計画に基づいて耐震改良推進計画を作っていくかと思っ

# 一般質問



## 新エネルギーの利活用による「エコシティ」の建設を!

真崎 寿浩

**新エネルギーの利活用による「エコシティ」の建設を**

**質問**

住みよい地域を作るために、特色ある地域作りが不可欠である。質問のたびに私は申し上げていることがある。地域に住んでいる人間がその地域に満足をしていなければその地域の魅力は生まれてこない。すなわち、住民が地域という言い回しの中には行政と言うことも含まれていると思うが、不平不満ばかり漏らしているところに観光客は来てくれないと考えている。

エコノミーな地域作り、住民に密着した新エネルギーを活用した「エコシティ」構想が今だからこそ必要があると思う。

仙北市では平成十八年度の予算で「仙北市地域新エネルギービジョン」を策定したところであるが、可能性は無数にあると思う。

市の総面積八十五％を森林が占めている。その利活用、「未利用森林のバイオマス資源としての活用」は地域の活性化に繋がるものと確信している。この事業を導入し、地域を活性化させる考えはないか伺う。他に可能性があると感じた物は水力発電である。

仙北市は高低差のある地形という中で、農業用水路、中小河川など小規模な水力発電は、例えば電照による菊の栽培をしている農家や、ハウスの熱源に用いる等可能性は十分に推測される。このようなことも地域の農業の活性化に繋げていってもらいたいと思っているが市長の考えを伺う。

**市長**

地球の環境問題を考えた場合、電気始めそのほかエネルギーの安定的な供給は今のままでいいのだろうか、仙北市としてどういったものを求めていくべきかというところで、「新エネルギービジョン」を作成したところである。

結果としてはそれがまちづくりとか産業の振興に繋がっていくものと思う。太陽エネルギー、風力エネルギーそれから森林系のバイオマス、中小の水力発電といったそれぞれについて利用可能性の評価を行ったところである。仙北市としては、森林という地域の特徴を活かし、森林から求めるエネルギーと可能性を第一番に求めるべきでないだろうか。

**質問**

「仙北市新エネルギービジョン」を活かした地域

作りを早急に行うべきと思うが地域の農業の活性化にも繋いでもらいたい。又他方面では公共施設並びに教育施設などに設置することにより大いに期待できると思う。タイミングよく角館統合小学校が建設中であり、間もなく神代小学校も改築されると思うがその中に計画を組み入れて行っていく考えがあるかどうか。

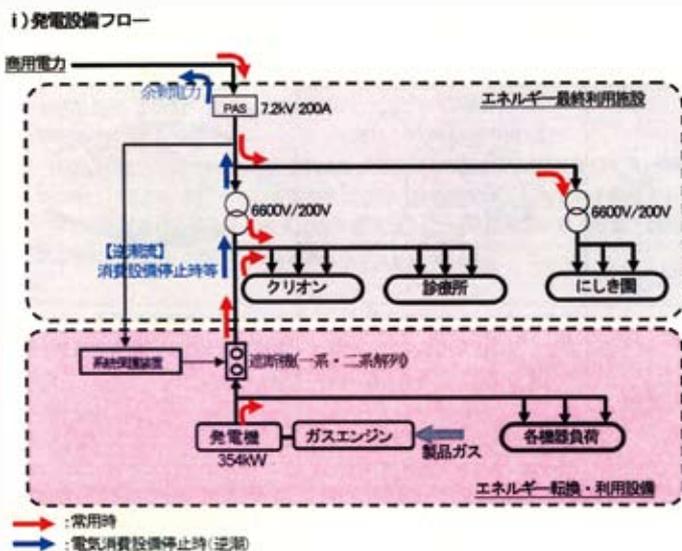
**市長**

新エネルギー、つまり化石燃料が枯渇していく。使い続けることによって環境が破壊される。個々を改善していかなければいけないと思う。

そういう意味での新エネルギーと言うことに対する関心を、市民、子供達にもしっかりと持ってもらう必要があると思う。

只今建設中の角館統合小学校、神代小学校について採用できないかとの話が

あったが、角館統合小学校については、もうほぼ完成のところまでできている。神代小学校は基本設計の中に自然を利用した発電の部分を取り入れようとしてやっている。これは校舎の中の様々な電気をすべて賄うという大がかりなものではないが、街灯を風力や太陽で補うもので、そういうものが校庭にあることで、子供達が意識して今後の取り組みをしっかりしてもらいたいという思いから進めているところである。



仙北市バイオマス計画

# 一般質問



## 財政健全化と新市建設計画の同時進行は可能か

### 仙北市の道路行政について

田口勝次

#### 財政健全化と新市建設計画の同時進行は可能か

**質問** 総務省は自治体の財政指標を新たに示し、厳しい姿勢で臨んでいる。

危機的状況にある仙北市の財政だが、合併当初の計画通り、事業を進めることが可能かどうか。

**市長** 情勢は変化しており、それに即していかなければならない。財政立て直しと事業実施は同時進行したい。場合によっては「見直し」、「縮小」あるいは「先送り」の検討も必要と思う。仙北市の財政状況は、財政力においては北秋田市と並んで最も悪い。また経常収支比率は下から三番目。実質公債費比率も最も悪い。いずれも厳しいが心配しているのは実質公債費比率である。借金返済のピークは平成二十二年度だが、平成二十六年度になっても標準値十八パーセントをクリアできない見通しである。

**質問** 総務省から「連結赤字比率」という新しい指標が示された。仙北市としては、病院の経営結果がこの数値を左右すると思うがどうか。

**市長** 田沢湖病院は九月から医師三名体制で改善に努めている。

しかし八千八百万円の赤字状況である。来年度から元利償還金が約一億円近い支払いとなる。医師確保に努め経営改善にあたる。

**質問** 来年度の予算編成に当たり心していることは何か。

**市長** 基本としては「市民との協働によるまちづくり」の理解を求めたい。財源確保のため「収納率の向上」に努める。

事業については「ゼロ予算事業」を取り入れる。新規事業についてはスクラップアンドビルドを基本とする。補助金の整理統合を更に進め、新規は認めない方針である。

#### 仙北市の基幹産業「農業」の実態と今後の展望

**質問** 米作り農家にとって米価低落は大きなダメージである。このままでは生産意欲はわかない。

「間に合わない米を作る農家に責任はない」。今日の農業状況は国の政策にある。追随した県や仙北市にも責任の一端はある。農業の衰退は仙北市の崩壊に繋がり、市としては危機的な状況といえる。有効な施策を考えるべきだ。

**市長** 現状を打開するには米に依存した農業から脱却しなければならぬ。又売れる作物を作ることが必要だ。作物を増やして強い農業を目指さなければならぬ。

そのために現在進めている集落営農や認定農家を増やしていかなければならない。施策については、国、県に準じた施策をもって臨みたい。

#### 仙北市の道路行政について

**質問** 菅沢踏切について、国交省は法律に基づいて改良すべき踏切に指定した。「鉄道業者及び道路管理者が協議して改良を実施する」とある。道路管理者である秋田県は立体交差化から構造改良に変えた。この件について仙北市はどのような取組みをしてきたのか。進まない理由は道路管理者の県にあるのか。

**市長** 菅沢踏切では一〇五号線



改良が待たれる神代第一幹線

の交差点の改良と一体的に考えており、地域振興局を通じて早期改善方をお願いはしている。今年も地域振興局との懇談でお願いした。

**質問** 神代第一幹線の危険な道路形態について、経過説明と見直しについて伺いたい。

**市長** これまで四回ほど協議したが、ご不幸があり、話し合いは現在中断している。解決の見直しはある。

# 一般質問



## 新年度の国・県に対する要望活動について

### 農業青年のリーダー養成について 議員の一般質問に対する対応について

戸澤 清

#### 新年度の国・県に対する要望活動について

**質問** 国・県に対する要望活動が非常に激しさを増している。県は対等協力関係でサポート役に徹するスタンスで臨んでいる。

新年度の方針の元に主要な要望活動をどういう形でやっているのか。

**市長** 県の市長会で各市から提出された要望事項を取りまとめ国・県へ要望している。今年度、仙北市からは地域医療確立のための自治体病院経営に対する支援、農業集落排水事業への県費かさ上げ補助の継続実施、生活バス路線への補助制度の堅持と新たな公共交通システムへの支援確率という三項目を出してきた。また、仙北地域振興局とは定例的に行政懇談会を行っており、要望に対しての回答をもらい、議論をしながら状況を理解して頂き、その対処をしていくという努力をしている。その他、あらゆる立場で国・県に対し要望活動をしている。

#### 農業青年のリーダー養成について

**質問** 厳しい情勢の中、懸命に挑戦している若い経営

者が語り合う集いが必要だ。分析あるいは実態、やる気のある方の考え方を把握しなければ政策も打ち出せないのではないかと。きつかけを行政が作ってやるべきと思うがどうか。

**市長** 市としてやる気のある若い農業青年の育成を支援していく必要があると思っている。現在、認定農業者協議会と連携をとりながら、若手農業者の意見交換の場を持つことを企画、計画している。父親世代の農業者と意見交換をし、様々なことを学ぶ機会として活用できればと思う。

#### 議員の一般質問に対する対応について

**質問** 一般質問の際に答弁されたもの、陳情や要望書で採択されたもの、その後の経緯、検討、取り組みの課程、進捗状況が見えないものが多い。重視した対処を望むものであるがどうか。

**市長** 誠に申し訳ないところである。今後は、一度検討を前向きに行うという姿勢にたつた事項について、その後の経過結果について全庁的にわかるような仕組みをつくらせていきたい。いずれにしても、総合計画の中で位置づけ、

実施計画の中に具体的に貼付けて事業として進めていくことになるので、その点についても御理解を頂きたい。

#### 老朽化した福祉施設の民間法人化移行について

**質問** 清眺苑、寿楽荘は老人を預かる施設とはいえない状況になっている。現場にいる職員も非常に心配している。行政改革の中でも取り上げられているが、早く取り組まないといけないのではないか。

**市長** 早急に合理化のため、行政改革のためにも優先的に取り上げる課題だと思っている。建物の状況も非常に老朽化が激しいことも含め、法人化、民営化ということも視野に入れ、検討しているところである。

#### 教育施設の整備充実について

**質問** 各学校の実態から実態を調査し、年次計画や整備計画を早く立てる必要があると思うが、どう対処する方針であるのか。

**市長** 市全体として財政状況をにらみながら、

優先順位をつけてやっていくことになるが、全体的にある市有財産を大事に使っていくという観点から、慎重に、そして効果的な財政判断をしていきたい。

**警告** 定期的に確認を行い、予算に計上し対応しているところである。基本的なことについては、学校からの要望もあるが財政上のこともあり、緊急性・必要性の高いものから順次実施している状況である。大規模な修繕工事については、実態調査の上、実施計画に計上し整備に努めていきたい。



老朽化が著しい寿楽荘

# 一般質問



## 低米価、ガolin高騰、各種税(料)の増、景気低迷等により、市民生活は大変な状況になっている市民の生活を守る仙北市の施策について

浅利 則夫

### 市民の生活をどう守る

**質問** 国に追随した横並びの政策をそのまま私たち仙北市の農家に押しつけるのではなく、全ての農家が安心して継続できるそうした農業を基本にしていきたい。

**市長** 仙北市が主として耕作している農業作物はやはり米である。その中で国の施策を頭に描きながら、仙北市の施策を進めるという意味では、仙北市の農業に一番あつたやり方で進めているところである。

**質問** 税金等で負担増の中で節約にも限度がある。こうした急激に厳しいときは、何らかの救済措置を適確に打ち出していくのも市の役目では。

**市長** ある判定基準の中で生活に困窮をする、それに耐えられない方々にはそれなりの支援をしていくという考えで、個々に油が高くなった、何が高くなったと言うことで一つ一つについてその対応策を考える段階ではないということ。今特に考えていない。

### 災害対策

**質問** 今回の豪雨災害で、河川改修をしたところとしていないところの差が被害に

歴然と現れていた。河川改修の必要性を改めて認識させられた。今回の災害で氾濫した沢や川の河川改修の取り組みについて伺う。

**護国** 今回の災害と関連している、上松木内の宮田地区で河川改修のために一部用地を購入している箇所がある。計画が事前にあるという立場から一日も早い改修をお願いしたところである。これについて、正式には聞いていないが、今回の補正予算の中に盛り込まれたと聞いている。

### 認定こども園

**質問** 昨年の十月に認定こども園制度がスタートした。仙北市の幼稚園、保育園の設置状況を見ると、生保内地区や神代地区においては、幼保一体、あるいは幼保連携ができており、その他の施設では幼稚園単独型、保育園単独型という現状である。こうした単独型の施設を認定こども園とするよう早急に取り組んでいく必要があるのでは。

**市長** 保育を目的とした保育園と、幼児教育を目的とした幼稚園、基本的には一体化の方向で進むのが好ましいと思う。地域のニーズがどう

であるかということを進めていくべき事であって、一律認定こども園であるということも行き過ぎでは、再度調査の上、認定こども園への取り組みについて考えていきたい。

**質問** 介護保険の認定のこども書類的に利用させていたいただきますというように同意書ももらいながら、診断書ももらわない、認定証の有効期間も判定がある限り有効であるというような、ただ欲しいときは役所の方から申請者、該当者に申請書を送って郵送で交付をする、こうした障害者等に易しい政策を打ち出してもらいたいと思う。

### 障害者認定の対象認定証の発行について

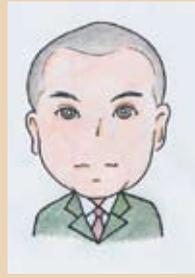
**市長** 認定に当たっては介護認定者であるか、また重度の障害を持った方である、また寝たきりであるとか、様々なことを判断した上で交付をしておりますので、やり方については今のところ変える予定はない。

大仙市、美郷町も私どもも同じ要項で対応しているところである。この発行については継続して行うと言うことを要項の中に記載してございませぬので、一回認定を受けた方については取り消しがない以上はそのまま継続していくということ、何回も手間暇をかけるまでもいいようになっている。



認定こども園制度の取り組みは(だしのこ園)

# 一般質問



## 今後の仙北市の方向性について

### 仙北市の将来を担う子供達のことについて

田口 寿宜

#### 仙北市の方向性について

**質問** 仙北市が誕生し二年が経過した。財政状況が厳しい中、それぞれが目標達成に向けて活動している。

市長の市に対する思いは、市政方針などで伺ってはいるが、方向性や将来像が今ひとつはつきり伝わってこない。市民の生活に密接している農業、商工業、そして観光産業、福祉、教育について市長のビジョンを今一度明確に示していただきたい。

**市長** 観光産業と商工業、農業が別物ではないという認識をしっかりと持ちたい。農業の振興、商工業の振興が観光と関わることによってそれぞれの分野が今以上に元気になろうという施策を今進めているところである。

福祉については、高齢化率が三〇パーセントを超え、四十パーセントに近づいている。高齢者が自立できることを前提に高齢者が自立できるように介護予防、健康維持のための施策、そして老人クラブ、かたるべ会などの活動に対する施策、支援に力を入れていく。

教育に関しては、幼児教育、学校教育、生涯教育というそれぞれ世代ごとに、またス

ポーツ教育、情操教育の両面からも教育委員会と連携をとりながら進めていく。

#### 仙北市の将来を担う子供達のことについて

**質問** インターネットや携帯電話などの普及による有害情報、またインターネットや掲示板などによる誹謗中傷が全国的にも大変な問題になっている。携帯電話から出会い系サイトへ踏み込み様々な犯罪に子供達が巻き込まれている。仙北市でもいつこれら

の事件が起こるのかわからない状況になっている。教育委員会、学校、そして地域とPTAが今以上に連携し環境作りをしなければならぬと考えるが教育長の見解を伺う。

**警長** 携帯電話は小学生はまだわずかですが中学生では二十%ぐらいの子供が所持しているようである。しかし学校への持ち込みについては規制をしている。コンピューター、インターネットについては、使用方法だけでなくマナー、あるいは危険、潜在危険についても指導しているところである。しかし子供達は

どんどん進化していく、今後、PTAを通して研修会で保護者へこの問題に対する意識向上、対応の仕方について学ぶ機会を増やしていく。

#### 児童、生徒による子供会議は実施できないか

**質問** 子供達を含む若年層を将来如何に定着させるかは、これからの重要な課題であると考えます。子供会議を開催し、市のことを知ってもらうと同時に夢を語り合い、議論しその成果が市の施策に反映されるという流れを作っていくべきと思う。単なるイベントとしてでなく継続性のある将来に結びつく形でこの子供会議を開催できないか。

**市長** 現在、玉川ダムの子供交流会を毎年開催している。市内の小学四年生に全員参加してもらい、ダムの仕組、水のありがたさ、森林との関係など習得してもらっている。こういったものを発展させ教育委員会と相談しながら進めてみたいと思う。

**警長** 児童会、生徒会、あるいは地域の色々な活動を広



仙北市の未来を担う子供達

げて市内全体に広げていくには、若干の段階が必要と思う。校内の話し合い、小、中学生との意見交換、テーマをもとにした全体会議などそれぞれの段階の中で、ふるさとを知りふるさとに誇りを持つことは大変大事なことでと思う。今後具体化に向けて進めていきたい。

# 一般質問



## 災害に遭わない河川整備を 角館高校、南高校の存続は

小林 幸悦

### 市の地球温暖化対策は

**質問** 地球温暖化防止について自治体の出来る施策はないか。

温暖化現象が原因で起こる異常気象の中で本市がもつとも心配される大雨の問題について訊ねる。今年の旧月検木内を中心に被害をもたらした豪雨はそれだと断言できないかも知れないが関わりも否定出来ないものと思う。それらは直ちに解決できない、時間のかかる問題でもあるので、災害が起きてどう備えるかを考えることが必要だと思

う。浸水しやすい土地や、土砂くずれの危険性の高い土地に立てられた住居や施設をどう守るか。人がどこに住むかという視点で、土地の利用方法を聞かせてほしい。

河川公園も復旧する際、被害に遭っても、経費のかららない整備をすべきと思うかどうか。

**市長** 仙北市の温室効果ガス排出量の削減目標はまだ出来ていないが、具体的、実効性のある削減数値目標のある計画にしていきたい。

但し、十九年度については旧角館町の計画を準用して仙北市として削減に努めている。

る。

同様な豪雨が来たときのことを考え、ハザードマップをつくり、危険度の高い所から対策をとっていく必要がある。

**建設課** 財政的問題等を含めて河川改修はなかなか進まない。議員始めいろんな方々に陳情していた、だき今県の河川管理が進められている。ご指摘の形の整備が一番いいが今回は現状復旧である。

### 二校存続はどうなる

**質問** 市長は県立角館高校、角館南高校の二校存続を強く望んでいたが、存続についてどのような協議をされたのか。

又、現在の少子化を考えるとどうやって二校の生徒確保をするのかも難しい。二校存続を望むとすればその方策は何か。

**市長** 角館地区の高校教育が一枚でとなると、選択肢として狭い範囲であり、本当に人を育て上げられるのかと言う観点から県に見直しを求めている。大学であれ、専門学校であれ上級学校を目指す進学校といわれる高校と高校卒業後社会に即対応できる教育を受けられる学校が独立してあ

って初めて子供たちの教育に役に立つのではないかと地域振興局に申し上げているが、はかばかしい回答は得られていない。二校存続の会も同じスタンスである。生徒確保については、角館高校、南高校の校長を始め、従来から角館地区に生徒を送っていた、だき、受験していただくよう活動をしている。

### 本庁舎の調査の進み具合は

**質問** 本庁舎の位置についての調査・検討はどこまで進んでいるか。そろそろ案を示す時期ではないか。分庁舎方式では職員減は難しい。延びれば延びるほど特例債がなくなるのではと心配である。建設計画の見直しもありえるとのことだったが建設計画はいつまで決断されるか伺う。

**市長** 庁舎については、候補地、候補の既存建物、庁舎に求められる機能、概算事業費、財源、組織のあり方を検討中である。

合併特例債は財政に余裕を持つ為約八割程度の使い方は予定していない。

### 岩瀬北野線、横町〜小館間の工事着工は

**質問** 岩瀬北野線未開通部分、横町〜小館間工事はどうなるのか。

かなりの経費がかかると思いたが経済効果はあると思う。道路利用者の利便はもちろんだが、地元業者を育てるという観点からも事業者向けに検討していただきたい。

### 市長

平成二十年度から二十七年までの計画計上はしているが、移転等の難問題を抱えた未開通部分である。計画実施の判断は投資対効果の観点から決めていかざるを得ないが市全体の中の公共事業の年次計画にも気を配りながら予備的基礎調査を踏まえて進めていく。



岩瀬北野線の延伸は

# 一般質問



## 仙北市の観光行政について 市街地活性化について 仙北市消防団組織の組織再編について

八柳良太郎

仙北市の観光行政について

**質問** 観光をもっと強力な産業にして行くには、色々な施策が必要だと思う。何があればよいのか、またその条件は何なのか。産業連携プロジェクトの取り組みについて、現状と将来性について伺う。

**市長** 観光を独立した形では考えず、農業や商業、工業との連携という事で、産業連携プロジェクトチーム中에서도施策を練っている。観光に関わる産業がそれぞれ特徴を持ち、他にないものを自信を持って売れるような体制、また、それにチャレンジしようとする人たちを支援する、そういう姿勢でこの産業連携に関わっている。

市街地活性化について

**質問** まちづくり交付金事業を中心とした外町活性化策について、外町交流広場構想を中心に伺う。この事業の目的は、市街地活性化である。しかしこれで良いのか、町中の活性化は期待できるのか、こういう強い思いがあるのか。上新町にある商店街はどうなっていくのか。横町の県道

道路工事が進んできており、上新町の横町からの入り口がわからなくなった。横町から立町十字路への誘導看板設置について考えを伺う。

**市長** 何らかの改善策を取るよう、関係機関とも調整をとりながら図っていきたい。

**質問** NTT跡地（外町交流広場）の建物設置について伺う。やはり建物ありきではなく、より賑わいを創出できるか、使い勝手を含め町内会とも一度深い話し合いをするべきと思うがどうか。

**市長** 関わる方のそれぞれの考えもあり、最終的に皆さんから頂いた意見を集約した形で外町の活性化、市街地の活性化に必要な建物として最終案を作り上げたつもりであり、その点を理解いただきたい。そうした話し合いの努力は重ねてきたと思う。

**質問** 建物内部の利用について伺う。少なくとも交流施設であるので、情報コーナーの中に視聴室設備を設置し、映像を通し角館の祭りや四季を紹介し、再び訪れたいと思ってもらえる施設にすべきと考えるがどうか。

**市長** この建物でそれをやることについては、非常に

中途半端なことになると思うので、当初から避けるよう指示している。もし必要となれば、西宮家の蔵の中の一つを活用するといった事でも可能であると思う。

**質問** 中心市街地に、賑わいとお客の回遊性を持たせると言うことでは、空き店舗の活用が是非とも必要であると思うが考えを伺う。

**市長** 市としても空き店舗の調査を進め、それを皆さんにお知らせをして活用を図っていききたいと思う。

仙北市消防団組織の組織再編について

**質問** 消防団の組織再編についての話があるがよくわからない。団員の方々もよくわからないと言うことである。この再編の目的は何なのか。また、どのような基準で再編されるのか伺う。

**市長** 合併協議の時点において、三年間は連合消防団として既存の各町村の消防団は継続することによってきた。平成二十年四月からは仙北市消防団として新しく発足するわ

けだが、現在の団員数は、定数七百六十七人に対し六百四十二人で充足率は八十三・七％である。そういった中で、機能的に活動していただくことによって消防活動に支障の部分を幾らかでも改善することも含め、今までの二十四分団を十分団に再編することを考えている。基本的には、それぞれ今まで活動してきた区域での単位は生かしていく考えである。大幹部会及び各区の幹部会からは了承を頂いている。



市街地活性化の切り札になるかNTT跡地

# 一般質問



## 農業振興地域整備計画の変更について

### 教育委員会と教育現場の連携の在り方

安藤 武

#### 農業振興地域整備計画の変更について

**質問** 農地転用許可の遅れの原因は、農業振興地域整備計画変更の手続き上と云うが、四月の決定から八ヶ月たった今、申請者からは何の音沙汰もないと聞く。この状態はいつまで続くのか。

**市長** 合併後の仙北市として農業地域振興整備計画をきっちり作って、それに基づいてやるようにという県の方針、指導の下に、今手続き中であるが予備協議、事前協議、こういったことを行いまして年度内には整備計画が認定になる予定である。これに基づいて申請をもらいスムーズな許可、作業が出来るように取り扱っていきたいと思っている。

#### 義務教育について

**質問** 前回問題としたのは教育委員会の手順であり、教育現場に与える影響であり、地域に十分配慮された結果だったのか。

今、実は中学校に不登校の生徒が居ると言うことであり、しかも、前回取り上げた指定校変更による問題から発生したものだとしている。

この件に対して教育委員会

はどのような対応をしたのか。

**教員** 指定校変更というのは、保護者あるいは児童、生徒がその事情によって選択することが出来るという制度である。

その中の関わりある生徒が不登校という話を今承ったが、承知していない。原因も含めて調査していく。

**質問** 再度伺う。私が心配しているのは、教育現場と教育委員会の連携がうまくいっていないという観点から今回取り上げたわけだが、教育現場の現状の報告を初めて受けたという、約一年になるうとするときに不登校を知らなかつたというのは、教育委員会として怠慢、そう言わざるを得ない。そこをもう一度答弁をお願いしたい。

**教員** 不登校の子供の状況及び取り組みの状況については随時報告を頂いている。しかし、その内容、原因、そしてその状況についてつまびらかに把握していないということをごいまして、報告を求め、あるいは現場に向向いて聴取し対応していく。

#### 給食費について

**質問** 給食センター運営審議会は去年の一月以来一回も開かれていない状態である。なぜ開かれなかったのか、また口座振替により更に未納額の増大が予想され、更に収納に時間が必要になると言うことが予想されるが、この対応は。

**教員** 給食の運営審議会の開催がないという話だが、そこも把握していないが、近いうちに運営審議会を開催する手はずになっている。案件は口座振替についてだが、未納額の問題も含めて、口座振替に伴う問題を今検討している最中である。

#### 指導体制について

**質問** 子供の教育の場は学校、社会、家庭の三つの場があり、スポ少は社会教育にはいると云うが、指導者の中にはその場の勝利だけを求めることが最大の使命であるかのように錯覚を起こす人は少なくない。社会教育として取り上げたスポ少が学校教育からかけ離れてくるのでは

ないか心配である。学校教育の場での対応は考えられないか。

**市長** スポ少は教育活動の一環であり、そういう意味では週何回の指導、活動、練習時間、練習時刻や、健康管理等の問題について話し合いをしてきたところだ。今後指導者と学校関係者と行政と三者の密接な連絡が取れるような運営協議会のようなものが必要になってきたと思っている。



愛情と英知をもって子供達と行動する指導者を

# 常任委員会だより



本議会において付託された案件は、議案七件、陳情四件である。

## 仙北市市税条例の一部を改正する条例制定について

**問** 納税貯蓄組合に対する説明の際、アンケート調査を実施した結果はどうだったか。

**答** 回答率が七十一％で、反対する回答もあったが、無回答も百五十五件あった。前納報奨金は、組合の財源としていないのが大半であり、個々の本人に還元されることからの結果と見ている。

**意見** 協力と理解を頂くため、しっかりと周知すべきだ。

仙北市長の資産等の公開に関する条例の一部を改正す

## る条例制定について

**問** 公開請求があった件数は。また、各庁舎に公開の請求書はあるのか。

**答** 田沢湖庁舎内の総務課に簿冊を備え付けて、来た方に見てもらっている。マスコミ関係が三件、一般の方からの請求はなかった。

**要望** 西木庁舎、角館庁舎における請求、要望に対し配慮することを検討していただきたい。

## 平成十九年度仙北市一般会計補正予算

### 【歳入】民生費県補助金

**問** 電源立地地域対策交付金を受けるには、条件はかかなり厳しくなっているのか。

**答** 会計検査院から指摘を受けた問題の件で、仙台の通商産業局に釈明に訪れた際、今後ともこの交付金を有効に活用して欲しいと言われた。今回の件で交付金が少なくなることはないことを確認した。通常だと四千五百万円が上限だが、合併した町村については、旧町村を合算した額の四千七百六十万六千円が毎年交付されることになる。

### 【歳出】企画費

**問** デマンド型乗り合いタクシーの運行利用状況はどうなっているのか。

**答** 十月は大人二百四十人、小中学生で普通券、回数券十二人、定期券百六十八人、十一月は、大人二百八十四人、小中学生普通券五十六人、定期券六十四人となっている。

今後、冬場になれば増えるものと考えている。現在は試験運行で土日も運行しているが、極端に利用者が少ない状況で、今後、地元代表者とタクシー会社と協議することになっている。四月からの本運行に対し、万全の体制で臨みたい。

### 【歳入】総合情報施設費

**問** 総合行政システムの契約満了で市での買い取りを断られたようだが、契約はど

**答** 法政大学が文部科学省の助成を受けて行う事業であり、仙北市は支援をしている形である。

**採決の結果** 議案七件については、全会一致で可と決定し、陳情四件のうち二件を採択、秋田内陸縦貫鉄道存続に関する陳情書及び地籍調査錯誤の修正方についての二件は継続審査とした。



試験運転が始まったデマンド型乗り合いタクシー

# 教育民生 常任委員会

案件は本会議において付託された議案七件と陳情三件である。

**仙北市職員定数条例の一部を改正する条例制定について**

(市立角館総合病院)

**問** 職員を多くすることは予算的に赤字だが、人数を増やして、赤字を解消できるのか。

**答** 収入増を見込んで、「一七対一」看護基準を導入した。人件費を差し引いても十分赤字の解消はできるものと考えている。

**問** 市立病院の経営統合を図っていかねばならないと思うが、目途はいついるのか。

**答** 統合については、医療改革会議でも議論されているが、結論に至っていない。

総務省が公立病院の改革を打ち出しているので最終的には市の政策として判断するものと考えている。

**仙北市病院事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例制定**

**問** 改正の内容を説明してほしい。

**答** 育児休業法などの改正である。従来の「三歳に満たない子」から、「小学校就学始期に達するまでの子」に改め、一日二時間を越えない範囲で無給休暇を与えるもの。

**問** 自己啓発等の休業の承認とあるが、具体的にどのようなことか。

**答** 自ら希望して国際貢献を行うとか、大学へ行って勉強するとか、認定看護師の資格を取得する等の場合、休暇を与えるものである。休業期間中、給与の支給はない。

**仙北市一般会計補正予算**

**問** 灯油の値上がりで高齢者世帯や所得の少ない方々にとつてさらに厳しい冬になりそうだ。福祉の観点から市の対策は。

**答** 国の支援対策について詳しい内容がまだ届いていない。通達が届き次第検討したいと考えている。

**市長(定例会最終日)**

国が緊急原油高対策として、寒冷地の低所得者層を対象にした灯油代補助を考えているようなので、市としても国と歩調をあわせてい。

内容は、生活保護世帯以外の七十五歳以上の非課税世帯と、一人暮らしの障害者の方に支援するものである。

一世帯あたり灯油五十リットル、または、五千円を上限に援助する。早ければ一月中旬ころ結論が出ることになっている。

**問** ゴミ処理施設管理運営費のなかで、修繕にかなりの経費がかかっているが、もっと安くできるような工夫を考えているか。

**答** また、修繕計画を立てていると思うが、委員会に示せないのか。

**答** メーカーが独自に



修繕費の削減が求められるゴミ処理場

開発した特許的なものもあり苦慮しているが、今後も安く出来るよう工夫していきたい。

修繕計画については、建設当初に作成した計画書はあるが、当時と状況が変わってきているので、その点を見直していきたい。

**問** 角館小学校建設工事で、元請の企業体から、地元業者に、下請けとして、工事を発注したのは業種別にどれくらいあったのか。

**答** また、机、イス等の備品購入についてはどのように考えているのか。

**答** 元請が地元業者へ発注した業種は、ガラス工事、木

工事、足場工事、土木工事、クレーン関係、金属加工、左官工事等で、金額にして約二億円で契約率は十一、七％程度。

机、イス等については、現在使用しているものをそのまま使いたい。

ただし、補修が必要なものもあるので、年内に確認し、財政課とも相談の上、発注を急ぎたい。

**私立病院事業会計補正予算(市立角館総合病院)**

**問** 事業の内容を説明してほしい。

**答** X線透視撮影システム整備事業は、既存の機器は平成元年二月の購入であり、透視、撮影像が非常に劣化してきているため更新するものである。

内視鏡光源システム整備事業は、既存拡大スコープに、今回、導入をお願いしている機器を組み合わせることに、見えにくい細微な病変を光の力で分かりやすく照らし出すシステムである。

多彩な機能が精度の高い診断につながるものと考えている。

# 産業建設 常任委員会

当委員会に付託された案件は、議案十一件、陳情二件、意見書の審査一件、合計十四件である

## 住宅条例の一部改正

**問** 田沢湖地区公園南団地の入居者募集はいつから始めるのか。賃貸料と入居対象者は。

**答** 平成十九年十二月二十日に六戸が完成し、平成二十年二月一日から二月二十九日まで入居募集をする。賃貸料は平屋が二万五千六百円、二階建てが二万七千三百円で、入居対象になるのは低所得者の方々である。

## 農業振興費

**問** 売れる米づくり推進対策費の内訳は。



2月から入居募集が始まる公園南団地(生保内)

**答** 売れる米づくりを推進するため、減農薬、減化学肥料の取り組みに助成し、付加価値米の生産拡大を目指すものであり、助成単価は十アールあたり新規二千元、継続千円を交付するものである。

**問** あきたの水田農業チャレンジ対策事業補助金が減額になった理由は。

**答** 県単独事業で、稲作の直播栽培等に対する事業だが、県が市を通さず事業主体である水田協議会へ直接交付をしたことによるもの。

## 畜産事業費

**問** 強い農業づくり交付金事業六百九十二万千円の内容は。

**答** 国の補助事業で、生保内町田地区飼料生産組合の補助金である。当初二十年度の実施希望であったが県から十九年度に前倒し実施して欲しいとの要望があり、今回の補正となった。

## 伝承館費

**問** 館蔵備品購入費の内訳と現在どれくらいの作品を所有しているのか。

**答** 桜皮細工伝統工芸展で、県知事賞の茶筒十五万円、東北森林管理局局長賞の茶筒十六万円。現在七百五十四点で、三千九百万円相当。そのうち六点が市の文化財になっている。

## 道路新設改良費

**問** 地方道路整備臨時交付金事業で行う田沢湖橋の現状と工事の工法は。

**答** 秋田新幹線開業の際、落橋防止が義務づけられたのは県内で田沢湖橋だけである。

調査の結果、補修が必要となり設計を終えた段階

で、県を通して国と協議したところ、同事業で整備するよう指導があり、千八百万円の補正である。工法は現在のコンクリート橋脚に鋼板を巻き建てる補強工事。年度内完成予定。

## 簡易水道事業特別会計補正予算

**問** 下松木内地区簡易水道事業費補助金が減額された理由は。

**答** 配水管が路肩に入っているため国道一〇五号線の道路改良工事と同時進行であるが、県の事業が次年度に繰り越されるため減額したものの。

**問** 消費税及び地方消費税が還付されているが内容は。

**答** 還付金三百八十万三千円は国税局の課税ミスによるもの。

## 公の施設の指定管理者の指定について

**問** 西木町の「かたくり館」の指定管理者に応募した団体等はどれだけいたのか。また、当施設は立派な施設

だが普段あまり活用されていないように見える。施設内で野菜や山菜等の物品販売は出来ないのか。

**答** 応募は一団体である。施設内の物品販売は補助制度の性質上出来ないが、建物の軒下や屋外にテントを張っての販売は出来る。かたくりの花の季節や栗の季節には多くの方が訪れている。

## 下水道事業特別会計補正予算

## 集落排水事業特別会計補正予算

**問** 事業債繰り上げ償還の内容は。

**答** 平成三年度末までの事業実施のため、借入れしていた高い利子の公的資金を一旦繰り上げ償還し、公債費の軽減対策として国が認めたものである。利率5%以上の政府資金を今年度から三年間で、繰り上げ償還して借り換えるもの。

# 平成18年度一般会計歳入歳出決算

集中管理、下水道事業、集落排水事業  
浄化槽事業、国民健康保険、老人保健医療  
介護保険、生保内財産区、田沢財産区  
雲沢財産区、簡易水道事業の各特別会計決算

## 決算認定

**決算特別委員会**は十一人で構成され、委員長に浦山敏雄・副委員長に安藤武を選任。

平成十八年度の一般会計と十一特別会計の決算を二日間にわたって審査、一般会計と国保特別会計の二議案は採決の結果、賛成多数で原案を認定し、ほかは全会一致で認定した。

### 一般会計

決算額は歳入一八六億一千六十七万円、歳出一八一億七千六百四万円であるが、翌年度に繰り越せる財源は六千四百八十七万円となっている。実質公債比率二十、二％。經常収支比率九十二、六％、八十％越えると財政構造に弾力性が失なわれるといわれ經常収支比率は全年度に比べ二、七ポイント減少し、改善の努力は認められるものの依然として、財源の健全化に努めなければならぬ。実質公債比率は起債許可が必要である十八％を上回る二十、二％で、前年度より〇、八ポイント上昇している。高い水準にあると言うことは、多額の負債を抱えていることを意味する。

**問** 不納欠損額と未収金の状況と前年度との比較は。

**答** 不納欠損額の市民税は八十五人で二百二十一万円、固定資産税では百七十二人で一千二十六万円、軽自動車税は、二十四人で九万九千円、都市計画税は八人で十一万三千円となっている。前年度との比較については十七年度途中の合併であるため単純比較は出来ない。

**問** 企業誘致に関しては、他よりも有利な条件を提示しているが、成果があらぬ理由は何か。

**答** 周辺の立地環境に於いて産業別企業集積が出来ていないことが大きな要因だ。引き続き適地調査や、各ふるさと会を活用した情報収集を図りたい。

### 委員会での意見

一、税金および学校給食費等の税外収入において、納税者の不公平感が生じないよう可能なかぎり欠損処分を避けるように努めるとともに、とりわけ現年度の未納の解消を、よりいっそう強力に取り組むこと。  
二、企業誘致の実現化に向け具体策を検討し実行すること。

と

三、角館統合小学校の開校にあたり、備品等の配備に係る具体案を早期にまとめ、関係者に周知し理解を得ること。  
四、健全な財政運営のための行財政改革を具現化し、可能なものから早期着手すること。

### 各特別会計

特別会計の決算状況は、浄化槽事業と生保内財産区を除き、単年度収支ではいずれも赤字となっている。

○下水道事業  
○集落排水事業  
収入未済額を抱えることは今後の下水道事業、集落排水事業に与える影響は大きい。

### 国民健康保険

単年度収支で三千七百七十三万円の赤字、国保税の収納率が約七十七％。収入未済額の縮減が、当事業の経営安定化に重要な課題。田沢、神代診療所は住民に密着した医療を実践しており、住民福祉の視点から欠くことのできない施設となっている。  
○老人保健医療

○介護保険

清眺苑および桜苑の老朽化対策が急務。

○生保内財産区  
○田沢財産区  
○雲沢財産区  
○簡易水道事業

**問** 今後の水道料金の考え方は。

**答** 仙北市の全ての水道事業は平成二十一年度までに統合しなければならぬ。その後五年程度で料金の統一を図りたい。

浦山委員長は終わりに懸命な努力は評価するが、行財政改革の実践を加速させ、市民の血税が有益な形で還元される施策の展開を切望すると結んだ。



審査風景

私たち創成会は政務調査を「小江戸」と称される埼玉県川越市に決め、「小京都」と何がどのように違うかを調査することをテーマとした。

# 税務調査 各会派で先進各地へ

翠巒会・岩手県葛巻町  
エネルギー自給の「まちづくり」

創成会・埼玉県川越市  
「小江戸」と呼ばれている  
蔵づくりと町並み

私たち翠巒会の政務調査は、岩手県の葛巻町で「エネルギー自給のまちづくり」を目指し、自然エネルギーを生かした発電システムや林業進出・地場産材を活用するバイオマスプロジェクトを学んだ。

川越市は時代を超え、未来へ生きるまち並みを模索し続けている市である。川越は、江戸時代に北辺の要衝として隆盛を極めたとされ、当時の町割りの影響が今も色濃く残る人口三十三万人を越える首都圏の都市である。

城の南北を武家地とする「町割り」や町全体を守る位置に配置された神社、街路の特徴は、丁字路やかぎの手や小路に見られる。また商業地は間口が狭く、奥行き長い敷地割りのため、表はぎつしりと軒を連ねながら、奥に中庭やさらに奥手にオープンス

ペースがある。これは「商業地としてのにぎわい演出と快適な住環境を両立させる知恵が活かされている」といわれている。伝建群の種類や規模は違うが、小京都角館と似ている。

昭和六十三年の観光客は二百四十万人。平成十八年度は五百五十万人と大幅に増加している。観光施策に力を入れる川越市は首都圏という地理的条件から日帰り客九十七パーセントの通過型観光地として人気が高い。一方首都圏から離れている「小京都」は、本来は宿泊型の観光地なのだ

が、通過型観光地になっ

ている。同じ通過型の観光でも川越の具体的な誘致目標数一千万人計画は、仙北市のテンミリオン計画とは質的に違うものに思えてならなかった。

川越の町並みの景観は「蔵づくりの店舗」が中心をなしている。明治二十六年の大火が契機だそうだが、復興に当たった川越の商人は江戸（東京）に多くあった土蔵づくりを耐火建築として取り入れた。

当時首都圏の多くの町では歴史的な町並みが壊されてい

## 資源循環型農業を目指して

基幹産業が酪農業であり、家畜の排泄物も多い。ふん尿と牧場内の生ごみをメタン発酵槽へ投入し、発生したガスで発電、温水も利用できる。発酵槽から出たふん尿を浄化してから液体肥料を抽出するため、固形物の割合の減少と悪臭を抑えることができる。ため周辺に迷惑をかけずに散布できる。

液体肥料も草地に散布するが、ほとんどの病原菌及び種子に対して不活性化させる効果を持っているため植物の抵抗力に効果があるとの説明。

## 天と地と人の恵みを活かして

町立中学校の太陽光発電システムを視察。太陽電池パネルで発生した電力を中学校の昼間消費電力に当てるもの。事業費が約四千六百万円で、年間の発電量を購入電力に換算した場合約七十九万円なので維持管理費等の経費を除けば、十年間で採算が取れる。

仙北市では「秋田杉バイオマス発電地域システム化事業調査」をまとめた。

市長は一般質問で、実現化に向けて対策を考えていきたいと答弁している。期待する。

## 木質バイオマスのエネルギーから林業振興へ

木質バイオマスガス化発電所を見学。この施設は森林の間伐材等の木材をチップ化して燃焼の際、発生するガスでガスエンジン発電機を稼働させて電気を供給することはもちろん温水も供給できるシステムである。

木材の燃焼後に残るものは灰だけでなく木炭もできるため農業資材等に利用している。

現段階で生産コストは割高であるが技術的に改良できる部分をクリアしていけばコスト削減は可能との説明。



川越市役所にて説明を受ける(11月9日)

## 議長の一言



佐藤 峯夫

十二月定例会は決算議会といわれ、執行済みのものとして軽んじられる傾向にあった。  
しかし、決算の持つ大きな意義は、一、翌年度予算編成の反省事項、一、行政執行の方法、手段や効果の評価  
以上の点であることを忘れてはなるまい。  
それだけに、決算を重視することこそ、住民が変わって行政責任を問う議会のあるべき姿ではないだろうか。

## 請願・陳情・意見書

### 採択されたもの

- ・消費税の引き上げに反対する意見書採択を求める陳情
- ・法務局の増員に関する陳情
- ・クリオンプールの早期着工に関する陳情書
- ・陳情書 緊急避難経路施工について  
(継続審査となっていたが、狭隘かつ急勾配な場所であり、現地調査後、認められた)
- ・市道神代保育所線の道路側溝布設延長について

### 不採択となったもの

- ・後期高齢者医療制度に対する政府・厚生労働省への意見書の提出を要請する陳情書
- ・後期高齢者医療制度に対する広域連合への意見書の提出を要請する陳情書
- (委員会では、採択されたが、本会議で不採択となった。)

### 継続審査となったもの

- ・地籍調査錯誤の修正方について  
(更に調査が必要なし)
- ・秋田内陸縦貫鉄道存続に関する陳情書

### 意見書

- ・消費税の引き上げに反対する意見書
- ・法務局の増員に関する意見書
- ・道路特定財源の確保等に関する意見書

## 仙北市議会・会派設立

市議会では十二月定例会前に、五会派の設立届けが議長に提出された。  
これに伴い議会は会派制を取り入れ、会派の人数により議会運営委員の一部改正と一般質問者の人数を決めた。  
会派の構成は次の通り。  
(届出順)

- 創成会  
代表 田口勝次、青柳宗五郎、八柳良太郎、佐々木章
  - 政見会  
代表 浦山敏雄、門脇健郎、戸澤清、小田嶋忠
  - 仁政クラブ  
代表 安藤武、佐藤直樹、黒沢龍己、田口寿宜、澤田信男、佐藤宗善
  - 翠巒会  
代表 小林幸悦、真崎寿浩、田口喜義、藤原助一、大石温基
  - 日本共産党仙北市議会議員団  
代表 浅利則夫、平岡均、高久昭二
- 議会運営委員は次の通り。  
委員長 田口勝次、副委員長 田口喜義、浦山敏雄、安藤武、澤田信男、小林幸悦、高久昭二、委員外委員 佐々木章(副議長)

## 編集後記

後期高齢者医療制度のことが十二月の議会で大きな、話題になりました。

この制度は国の制度で、担当は、今、評判の厚生労働省で、仙北市役所では、市民福祉部になると思います。

役所の係が悩んでいます。国が選挙がらみで、どうなるかわからないのです。

(この広報が届く時はどうなっているかもわからない)

しかし、はっきりしているのは七十五歳以上の方は、この、医療制度には強制的に加入させられまじ、掛け金は年金から天引き(社会保険庁から)されます。もう、決まりました。

後のことはこれからです。今年、色んな問題があります。

知恵を出し合って頑張っていきたいと思えます。

ご愛読の程、よろしくお願い申し上げます。

### 訂正とお詫び

前回No.8市議会だよりの田口喜義議員一般質問タイトルで交流人口十四万人は一千万人の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。